

DATA FILE



単斜晶系

名 前	MUSCOVITE (マスコバイト) / 白雲母
化学組成	$KAl_2(AlSi_3)O_{10}(OH)_2$
色	無色、白色、薄茶色、緑色、銀色がかった灰色
光 沢	ガラス光沢、真珠光沢
螢 光	なし
条 痕	白色
劈 開	一方向に完全
断 口	凹凸状
硬 度	2.5 ~ 3
比 重	2.8 ~ 2.9

白雲母 MUSCOVITE

結晶はガラスまたは真珠のような光沢を持っており、その端は双晶となつて組み合わさっているものが多いが、結晶の形をとらないときは、鱗片状や散在する薄片の場合がある。

鉄やクロムを含むため、緑色がかつた白雲母。アメリカのノースカロライナ州産。

おもに花崗岩やペグマタイト、結晶片岩、片麻岩などで産出するほか、堆積岩や接触変成作用を受けた岩石の中で見つかる。

白雲母は、カリウムとアルミニウムなどからなるケイ酸塩鉱物のなかま。

白色か無色の場合が多いが、薄茶色や緑色、銀色がかつた灰色をしていることもある。

ロシアのウラルで産出したものが、モスクワ経由でヨーロッパに輸出されており、それが、「モスクワガラス」と言われていたところから鉱物名がつけられた。

劈開は完全で、素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。

何枚も積み重なった薄い層できている結晶は、層と層を結びつける力が弱く、紙のように薄くはがれる性質を持っており、別名「千枚はがし」とも呼ばれている。



シ
白雲母



▲ほぼ六角形の、幅の広い鱗片状の白雲母。

さまざまな用途

ガラスに似た特性を持つうえ、ガラスよりも弾力性がある白雲母は、数百年にわたってガラスの代用品として舷窓などに利用されてきた。さらに、熱や電気を通しにくい性質もあることから、アイロンや真空管などいろいろな電気製品の絶縁体や、ストーブの小窓、壁紙、ワニス、セラミック製品、屋根ふき材料などに用いられている。また、日本では、日本画や版画などで、キラキラした光沢を出す白雲母の粉をまぜた「きらら引き」という和紙が使われたり、粉を絵の上にふりかける「きらら刷り」という技法が伝えられている。

白雲母は数種類存在し、とてもきめの細かい粒状をしているセリサイト（絹雲母）、カリウムが少ないかわりに水を多く含んでいるハイドロマスコバイト、多量のケイ素と少量の鉄やマグネシウムを含有しアルミニウムが少ないフェンジャイト、緑色が特徴で酸化クロムを5パーセントも含んでいるフクサイト（クロム白雲母）などが知られている。

▶アメリカのコネティカット州ブランチビルで産出した白雲母。



▶福島県石川町で産出した白雲母。

主な産地

